



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.17
六甲山を子供達の遊び場に/越智 正篤
2004年8月発行

第17回テーマ：六甲山を子供達の遊び場に



野外で自由に遊ぶ

講演内容

山の中っておもしろい？
子供達って勝手に遊ぶもの？
大人ってどう関わるの？

野外活動

記念碑付近で遊ぶ

実施日：平成16年8月21日(土)
午後1時～4時

場所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：越智 正篤さん

プロフィール

1956年神戸市生まれ。
大阪体育大学体育学部卒業。
幼稚園職員を経て、1989年、有限会社ワールド・オブ・ゆうを設立。
2003年、NPO法人Spaceを設立。

「おっちゃん」と2人のお兄さん

街中の30℃を超える暑さに比べて自然保護センターは25℃と爽やかでした。快晴の中、予定通り野外活動も行いました。参加人数は40名でレクチャールームは子供の元気な声で賑わいました。

講師の越智正篤さんは「僕のことをおっちゃんと呼んでな」と、気さくな挨拶をされて講演は始まりました。講演の間、退屈しかけた子供達は、越智さんのところに所属する男性スタッフの坂田さん、金坂さんと一緒に外で遊び、保護者は、じっくりと話をきくことが出来ました。

「知覚動考」って何て読むの？

六甲山麓での野外保育で活動する子供の姿をビデオで紹介いただきました。越智さんが活動の軸とされている「知覚動考」の言葉を知りました。

大人の「危ない、汚れる」の一言が子供の遊びを制限していることに気付き、体験から学ぶ大切さ、経験を積む過程の重要性を見直しました。「小さなケガはさせても大きなケガはさせない」最小限の援助や関わり方について目を開きました。



親子で熱心に話をきく

小さな冒険を見守るのも冒険

全員で野外活動に出発しました。自然保護センターから東へ約10分の位置にある、山崎さんの雑木林をお借りして遊びました。子供達は、最初は斜面を恐る恐る登っていましたがすぐに慣れ、池に石を投げて遊ぶ等、夢中で楽しむ姿がありました。越智さんとスタッフは子供達の挑戦を傍で見守り、親達もいつもの口は出さず、離れたところでじっと見守りました。親子共に、いつもとちょっと違う体験ができ、満足の一時間半でした。

遊べる雑木林が見つかった

今回の講演にあたり、越智さんは六甲山上で活動できる場所探しに苦労されました。山崎さんのご好意で最適地に出会いました。ハイキング道から外れたところにある魅力ある環境を再発見できたことが、今回のセミナーの大きな成果です。

詳しくは1～2ページをお読みください。

参加の感想 石橋 雅子さん

「六甲山の秘密基地おもしろかった！」と今も思い出しては息子が話してくれます。今どきのおもちゃや道具がなくてもこんなに楽しめるんだということを改めて実感しました。

「知覚動考(ともかくうごこう)」、これを機に子供だけでなく親も実践していきたいと思います。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金